

共同礼拝

2024年8月25日(日) 午前10時30分
午後4時

司式 牧師 姜 徑米
奏樂 河野和雄 市橋佳子(夕)

前 奏

招 詞 詩 編 90編1b～2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 40章1節 (旧1123)

使徒言行録 9章23～31節
(新231)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 II 1

説 教 「平和と畏れと慰め」 牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 533

献 金

頌 栄 544

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

8月の祈り

戦争の狂気と悲惨を忘れることなく、主のみ心を求め、平和の実現をたゆむことなく祈り続けることができるように。

暴力、虐待、搾取、差別を乗り越えるための道を求め、実現への知恵がもたらされるように。

全ての者が平和こそ人の道であることに目を向けることができるように。

戦火や災害に弱る人々が力づけられるように。

今日の祈り

平和を求めているながらも与えられていない人々、傷ついている人々が守られ、回復されるように。

戦争と災害、世の不安の中で、惑わされずに、主イエスを見上げて歩む生き方が導かれるように。

礼拝が導かれ、力づけられるように。

暑さの中、高齢の兄弟姉妹が支えられるように。

「平和と畏れと慰め」 姜 徑米
使徒言行録9章23～31節

31節は、教会の様子を語るまとめの文章です。この中の、「基礎が固まって」という言葉は、「家を建てる」という意味です。教会という家、その教会の建設において、大切なこととして見つめられていることが三つあります。「平和を保ち」、「主を畏れ」、「聖霊の慰めを受け」ということです。平和と畏れと慰め、それが教会の建設、成長、発展に必ず必要です。

「平和を保ち」とあります。ユダヤとガリラヤとサマリアは、隣り合っているながら、仲が悪かったのです。しかし今、それらの地方のあちこちに教会が誕生し、平和を保っている、人間的な違い、対立

が、信仰によって、乗り越えられ、一つの群れとなっているのです。サウロがエルサレムの使徒たちの仲間になったことは、ダマスコで彼が伝道して生まれた教会と、エルサレムの教会が一つであることを示しているのです。様々な違いがありながら、主イエスにおいて一つであり、平和を保っている、それが教会です。

そして平和が実現していくために必要なのが、「主を畏れ」ということです。平和は、神様を畏れ、尊ぶところに実現します。なぜなら、私たちが自分の思いや考えに固執し、自分の主張を通そうとするところに、争い、対立が生まれるからです。主を畏れるとは、自分の思いや考えよりも神様のみ心を第一にするということです。自分が主であることをやめ、神様を主とし、自分は従うことです。サウロの回心において起ったのはこのことです。

サウロの回心は、熱心さの向きが180度変わったということではなくて、自分が主人、主体として生きていた彼が、主人である神様に用いられる器、僕になったということなのです。主を畏れるとはそういうことです。

教会の歩みに必要な第三のことは「聖霊の慰め」です。「聖霊の」慰めとあるように、この慰めは聖霊の力による、神様が与えて下さるものです。

教会は、この慰めによって歩む共同体です。神様が、私たちに、「あなたの罪は赦された」と慰めを宣言して下さるのです。それはもちろん、主イエス・キリストが私たちの罪を背負って十字架にかかって死んで下さったことによることです。主イエスの十字架の死による罪の赦しが、聖霊の慰めなのです。